

FA24のNAチューニングで最高速チャレンジ!

2023年6月9日発行・発売(3-6-9-12月の毎10日発行・発売)  
第15巻3号通巻92号  
ザッカー | 86&BRZマガジン

# XCAR 86 & BRZ magazine

**040**  
ANNIVERSARY  
10years & Vol.40

2023 Summer  
[7月号]

**AMW**  
AUTO MESSE WEB

ターボ&スーチャー装着で  
300馬力オーバーも夢じゃない!?

[創刊10周年&40号記念] 進化の過程を振り返る

*Anniversary*



[連載漫画]  
**D-STORY**  
スポーツカー誕生に関わる  
エンジニアたちの奮闘記







## ZETAIV Verio

13万9700円

スポーツ走行においてドライビングポジションは重要な要素。スタンダードモデルのジータIVではうまくフィットしない細身のユーザーにとって、ヴェリオは待ち望んだフルバケットシート。クッションやタオルでクリアランス調整することなく、ボディにジャストフィットしてくれる。もちろん保安基準適合でFIAの定める規格も取得しているので、国際格式のレースや競技会での使用も可能だ。



## ZETAIV VERIA

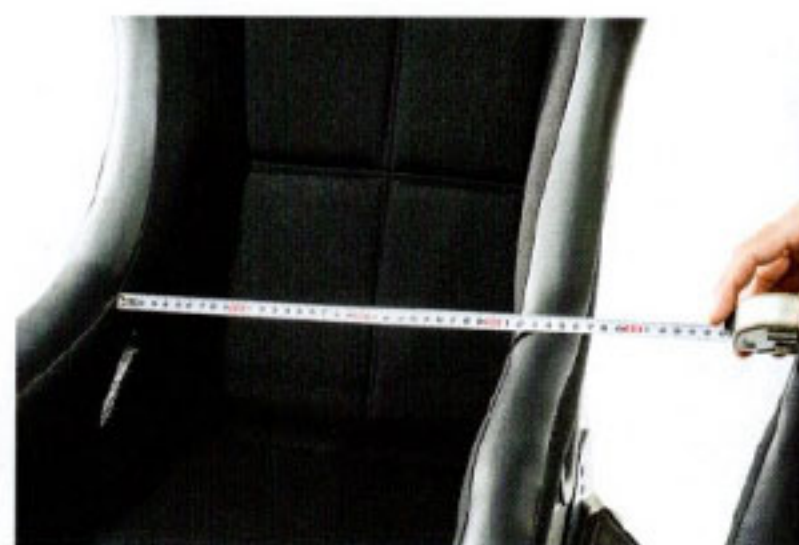
13万9700円

ヴェリオよりも、ひと足先に発売されたヴェリア。両タイプともシェル素材はFRP製シルバーシェルで、カラーはブラックのみ。ジータIVをベースに細身のユーザーに対応させたサイズ感もまったく同じ。違いはBRIDEのロゴとダブルステッチに鮮やかなピンクを採用していること。つまりモータースポーツを楽しみたい小柄な女性にスポットを当てたフルバケットシートだ。

### 標準モデルとスモールチューニングモデルの比較をしてみた

ZETAIVとZETAIV Verioのサイズを計測すると、ZETAIVにくらべて脇腹・太腿部分が約30mm狭くなっており、ヒップポイ

ントがZETAIVと比べて約30mm高くなっていた。座面の高さはクッションを変えることで変更も可能だ



ZETAIV Verio

ZETAIV



## BRIDE

### 小柄で細身のドライバー向けのスモールチューニングモデルに注目!

©ブリッド ☎052-689-2611 <https://bride-jp.com/>  
文●芝修 写真●芝修、水川尚由

#### ■ZETAIV Verio/VERIAの特徴

ヘッドレストのBRIDEロゴ刺繍はVerioがホワイト、VERIAがピンクになる

脇腹から太腿にかけて、サイド部のクッションウレタンを標準よりも約30mm厚くし、スリム体型に密着するタイトなホールド性を実現。フルバケットシート本来のホールド性能を発揮する

ヒップポイントを上げるため、座面底部シェルに約15mmの硬度の高いウレタンを接着。さらに座面クッションパーツの内部にも、通常のクッションに加えて約15mmのウレタン(取り外し可)を内蔵。合わせて最大約30mmの座面アップが可能になる。着座位置のアップと同時に、低身長ドライバーに起こりやすい、身体とヘッドレスト・ショルダーサポートとのミスマッチも解消する



160cm以下の小柄な人にフィットするフルバケット誕生

サーキットやワインディングをハードに攻めても横G/加速Gに振られることなく、ドライバーをサポートするのがフルバケットシートの役割。ブリッドでは走るステータや車種に応じたさまざまなフルバケットシートをラインアップしており、そのなかでも日本人の骨格、体型にフィットするシェルデザインであらゆるシーンに対応する定番スタンダードモデルがジータIVだ。

ただ女性など160cm以下の小柄なドライバーやワインディングをハードに攻めても横G/加速Gに振られることなく、ドライバーをサポートするのがフルバケットシートの役割。ブリッドでは走るステータや車種に応じたさまざまなフルバケットシートをラインアップしており、そのなかでも日本人の骨格、体型にフィットするシェルデザインであらゆるシーンに対応する定番スタンダードモデルがジータIVだ。

なドライバーとなれば、定番スタンダードモデルであってもキャストフィットというわけにはいかない。お尻や太腿まわりがフィットせずに、目線も低くなってしまふ。

そこでジータIVをチューニングして小柄で細身のドライバーにフィットさせたのがヴェリアだ。モータースポーツを楽しみたい女性を意識して、ヘッドレストのBRIDEのロゴとダブルステッチには特別カラーのお洒落なピンクが使われている。そして、このサイズは小柄な男性の体型にもフィットすることから、BRIDEのロゴをレギュラーモデルと同色のホワイトにしたのが新たに追加されたヴェリオだ。

ヴェリア同様このヴェリオがジータIVからどう変更されているのかについて、スリムな体型に密着させるために脇腹から太腿にかけてのサイドサポートは約30mm狭くなっている。そして座面底部には約15mmのウレタン+取り外し可能な約15mmウレタンによって最大約30mmの座面アップを可能にしたのだ。

もちろんジータIVならではの安全性を考慮したシェルや長時間運転での快適性を維持するためのモールド(成型)ウレタンなどは受け継がれており性能に関してはお墨付き。

また本ラインアップ以外のフルバケットシートでもタイトなホールド性にチューニングができるよう、サイドサポートのインナー部分に挿入するチューニングキットを発売する予定があるとのこと。ただ、こちらのキットはサイドを狭くするのみなので、ヒップポイントも上げたい場合はハイボディアジャストパッド(9900円)を併用する必要があるとのこと。